

日本文学研究会

平成十七年二月

西田茜秋の書の世界

西田 慶子

昭和六二年、本学専任講師として奉職して以来、生活の中に活かす「書芸」を目指す書道家としての歩みに加えて、学生を指導する教育書道に力を注いできました。振り返ってみますと、その双方の一体化によって私の「書芸」も深みを増したような気がします。この度は、僭越ではありますが、そのお礼の意味を込めて茜秋の作品から、とくに桜をテーマにした屏風を紹介させていただきます。

(助教授)

仮名草子研究の思い出

深沢 秋男

卒論で仮名草子の『可笑記』を選択したが、以後、この作品を中心に仮名草子の研究を継続してきた。その研究生活を振り返り、さらに今後の課題と計画を述べた。

仮名草子全般に関する私見は、「仮名草子の範囲と分類」(早稲田大学影印叢書・国書篇39巻『仮名草子』月報)で述べたが、ここでは、『可笑記』とその著者について略述した。内容は以下の通りである。

一、卒業論文のテーマ。二、『可笑記』本文の書写。三、『可笑記』諸本の調査。四、作品研究(『可笑記』百人一首注釈、『堪忍記』、『百八町記』、俳諧)。五、作者の伝記研究。六、今後の課題と計画。

(教授)

平成十七年度 日本文学科 卒業論文題目

○新聞のコラムと社説について

安藤 南美

○『山月記』—ジークル博士とハイド氏との比較考察—

小林 慶子

○坂口安吾『白痴』論

関山 真里

○話し言葉とネット言葉—会話とメッセンジャーの比較—

本田奈緒子

○吉本ばなな論

牧田恵里子

○『水仙月の四日』—雪童子の心象風景—

本橋 岬子

○日中対照研究—断り表現を中心に—

赤堀 文香

○『天草版平家物語』の敬語表現

赤松 沙織

○『清水冠者物語』の研究

秋元 絵理

○ルイス・キャロルからのプレゼント—ナンセンスの世界の魅力—

井澤 愛

○家に住む神々—『遠野物語』を中心に—

大浦さとみ

○新聞に見られる接続詞の用法

大江 智子

○江戸川乱歩論

大久保里美

○命名について

小倉 三穂

○静岡方言の研究

柿沼 由実

○狂言『花折』の研究

加藤 妙

○大人になったウェンディの選択—ネバーランドの魅力と代償—

門倉 千佳

○『ピーター・パンとウェンディ』の中のタブー—フックを中心に—

金子 直可

○『とはずがたり』の研究

川島 育子

○接触場面におけるネットワーク調整

菅野絵美子

○古事記「大国主命」の考察

木戸 恵美

○『瓜姫物語』の研究

楠元 真季

○能における成仏

久保田 愛

○小泉八雲における「日本」—作品と人間関係から—

桑原あゆみ

○『田園に死す』論—「故郷」の描写をめぐって—

河野 和子

○『魔女の宅急便』—少女から女性へ—

杉山 恭子

○中国喫茶文化と文学

関口江玲奈